



DocAve® 6 ソフトウェア プラットフォーム

SP 3 CU 3

リリース ノート

リリース日: 2013 年 2 月 6 日

DocAve 6 SP3 CU3 アップデート詳細

お使いの DocAve インスタンスのアップデートについては、[DocAve コントロール パネル ユーザーガイド](#) 内 **更新マネージャー** セクションをご確認ください。

DocAve 6 SP3 旧バージョンから CU3 へのアップデートに関連する重要な詳細は以下の表の通りです。

直接アップデートに必要な最低バージョン	DocAve 6 SP3
対応する SharePoint バージョン	SharePoint 2013 Online / オンプレミス SharePoint 2010 Online / オンプレミス
その他 AvePoint 製品との依存関係	対応プラットフォーム バージョン間の互換表については、AvePoint ナレッジベース内 Governance Automation, DocAve, SharePoint, and SnapManager for SharePoint Support Matrix (英語) をご確認ください。
新規ライセンス要否	×
IIS リセット要否	○
マネージャー サーバーのリブート要否	×
エージェント サーバーのリブート要否	×
アップデート状況の確認方法	コントロール パネル > 更新マネージャー > 履歴の表示 でアップデート状況を検証できます。 履歴の表示 ページで、新しくインストールした更新の バージョン 列を確認してください。

新機能と強化点

DocAve プラットフォーム

- ドイツ語に対応しました。
- 本バージョンでは、データベース レベル バックアップからアイテム レベルでリストアを実行する際に発生する問題に対応しました。DocAve 6 SP3 CU3 以前のバージョンでは、まずデータベースの [セーフリストア] を使用してウィザードを終了し、その後単一アイテム リストアを実行する際にウィザードを再起動すると、本番環境データベースでセーフ リストアが起動します。これによりアイテム レベル リストアを実行する前に既存のコンテンツ データベースが削除されます。本バージョンからは、この機能はデータベース レベルのリストアのみで制限されています。
- DocAve 管理センター、アカウント マネージャー、DocAve API で使用するユーザー選択ウィンドウでは、大規模ドメイン (同一ドメイン内に数千ユーザー) や同一ユーザーが登録された複数ドメイン間で操作を実行する際に障害が発生します。本バージョンからはユーザー選択ウィンドウが最適化され、大規模 AD 環境 (数十万ユーザー) にも対応するようになりました。

既知の問題

インストール

- Windows Server 2012 および Windows 8 環境で DocAve 6 プログラムを検索すると、Doc Ave 6 ショートカットは既定で Internet Explorer (IE) 10 の Metro バージョンで開きます。IE 10 では Silverlight 5.0 に対応していないため、スクリーン解像度が低いため IE が実行できない旨のメッセージが表示されます。この問題を解決するには、IE 10 デスクトップ バージョン、または Windows 8.1/Windows 2012 R2 環境 (デスクトップからのショートカットを使用するなど) の IE 11 で DocAve 6 を開きます。
- Windows アップデート KB2756920 をインストールした後にコントロール サービスにアクセスできない状態が発生した場合、ホットフィックス KB2637518 をインストールすることで解決します。ダウンロードリンクは Microsoft® サポート ナレッジベース にあります。

コントロール パネル

- .Net Framework 3.5 環境に DocAve エージェントをインストールした場合、その後同環境で .Net Framework 4.5 にアップグレードしても DocAve インターフェイスで SharePoint Online のサイトは表示されません。これは、.Net バージョンの情報がはじめに DocAve マネージャーでエージェントを登録する際に取得されるためです。3.5 から 4.5 へのアップグレード終了後、SharePoint Online に接続する前にエージェント サービスを再起動する必要があります。
- Administrator および User グループに対して **Internet Explorer 強化セキュリティの構成** が有効化されていると、ジョブ モニターでジョブ レポートおよびライセンス レポートをダウンロードすることができません。この問題を解決するには、**サーバー マネージャー** に移動し、**セキュリティ情報** セクション内の **IE ESC の構成** リンクをクリックします。**Internet Explorer 強化セキュリティの構成** インターフェイスが表示されます。**Administrator** セクションおよび **User** セクションで **[オフ]** ラジオボタンを選択し、**[OK]** をクリックして変更を保存すると、レポートをダウンロードできるようになります。

移行

Livelihood 移行

- Livelihood 移行ジョブを使用して Livelihood タスク リスト (マイルストーンおよびタスク グループを含む) を SharePoint 2013 ドイツ語環境へ移行する場合、マイルストーンおよびタスク グループの **タスク 状態** プロパティは SharePoint へ移行されません。SharePoint 2013 ドイツ語環境では、タスク テンプレートに **Aufgabenstatus** (タスク状態) の代わりに **Vorgangstatus** (アクティビティ状態) 列が表示されます。ところが言語マッピングの既定では **タスク状態** 列が **Aufgabenstatus** 列にマッピングされているため、問題が発生します。この問題を手動で解決するには、...¥Agent¥data¥Migrator¥LivelihoodMigrator¥LanguageMappings ディレクトリに移動して **LivelihoodMigrationLanguageMapping1031.xml** ファイルを指定します。メモ帳でファイルを開き、**<Item key="Task Status" value="Aufgabenstatus" />** ノードの値を **Vorgangstatus** に変更します。変更を保存してファイルを閉じます。Livelihood 移行ジョブを再度実行します。

SharePoint 移行

- SharePoint 2010 Web アプリケーション内で管理パスを作成した場合、SharePoint 2007 から 2010 への移行ジョブを実行し、移行先として手動で入力したサイト コレクションを選択すると、Web アプリケーション ノードを更新しても新しく作成した管理パスが移行先のツリーに読み込まれません。この問題を解決するには、Web アプリケーションのあるファーム ノードを更新します。

eRoom 移行

- eRoom 内の Windows NT ドメイン タイプを使用してディレクトリ接続を追加し、このドメインからユーザーおよびグループを eRoom へ同期したのち、同期したグループから新たにグループを追加して同一ドメイン内の SharePoint に eRoom を移行すると、グループの移行に失敗します。これは、eRoom 移行ではディレクトリ接続名をドメイン名として使用するため、eRoom 移行時に 2 つの異なるドメイン間での移行と認識されてしまうために発生します。この問題を解決するためには、移行元の eRoom 接続名と移行先のドメイン名をマッピングするようドメイン マッピングを構成する必要があります。

- DocAve 6.2 を使用してエクスポートした移行元 eRoom データを DocAve 6.3 にインポートできないという既知の問題があります。このため、SP3 へのアップグレード前にデータをインポートするか、アップグレード後に SP3 を使用して再度エクスポートしてください。

パブリック フォルダ移行

- オンプレミス版 Outlook から OWA (Outlook Web App) に向けて、または OWA からオンプレミス版 Outlook アプリに向けてメールを返信する際、メールの件名を変更すると、返信メールの **スレッド インデックス** プロパティの値が変更され、それ以降の返信が同じトピックで処理されなくなります。返信や転送メール、元のメールなどは移行先 SharePoint 内のディスカッション掲示板に移行されます。スレッド インデックスの値に変更があった返信メールや転送メールは、移行先でも同じトピックとして移行されることはありません。

EMC Documentum 移行

- 互いに属性を継承しあう 2 種類の Documentum タイプが移行後も移行元に存在している場合、これら 2 種類の SharePoint コンテンツ タイプは移行先で継承を保持しません。
***注意:** EMC Documentum のタイプは SharePoint のコンテンツ タイプと同じものになります。
- Documentum DFC Runtime Environment プログラムを SharePoint 環境にインストールして、移行元と移行先の両環境でファイアウォールを設定し、Document DFC Runtime Environment プログラムがインストールされた環境のエージェントを使用して接続を作成した場合、DocAve では接続設定の確認や接続の作成を実行することはできません。Documentum DFC Runtime Environment プログラムは、EMC Documentum サーバーにアクセスすることができません。

ファイル システム移行

- ファイル システム移行を実行する際に、移行先としてドイツ語サイトを指定してプランを保存し、メタデータ ファイルの手動での構成を選択した場合、保存する Microsoft Excel ファイル上でドイツ語の翻訳を手動で編集する必要があります。既定の用語セットのパス: **システム;キーワード** 内の **[キーワード]** のドイツ語訳が SharePoint 訳と一致しません。この問題を解決するためには、Excel ファイルを開き、**Schlüsselwörter** を **Schüsselwörter** (SharePoint 訳に合わせるため) に変更して Excel ファイルを保存し、ジョブを再実行します。これにより、既定値が **[システム;キーワード]** の状態で Managed Metadata 列が移行先ノードに作成されます。

データ保護

スタンバイ センター

- スタンバイ センターは、Sharepoint 2010 のみに対応しています。
- ダッシュボードで複数のグループが選択されている場合、スタンバイ センターの同期・フェールオーバー ジョブが失敗することがあります。
- ダッシュボードで複数のグループを選択してスタンバイ センターの同期またはフェールオーバー ジョブを実行する場合、一つのファーム内の SharePoint コンポーネントが複数のグループに追加されるため、一部のジョブが失敗となる可能性があります。要求されたプロセス数がセッションの制限を超過すると、ジョブが失敗となる可能性があります。

プラットフォーム バックアップ&リカバリー

- Windows 2012 では、データ ファイルがネットシェア パスに保存されているデータベースは VSS を使用したバックアップに対応していません。
- 単一サーバー構成の SharePoint ファームでは、エージェントがインストールされたマシン名が 15 文字を超過し、かつマシンの IP アドレスが SharePoint 構成の際にデータベース サーバーの値として使用されている場合、DocAve エージェントでこのファームのサーバー ロールについての正しい情報を得ることができません。C# API ではサーバー名の 15 文字までしか取得することができないため、DNS から取得した情報との不一致が発生します。そのため、エージェントでサーバー ロールを取得することができません。この問題の解決方法として、サーバー名が 15 文字を超過する場合は、…**¥AvePoint ¥Agent¥bin¥AgentCommonVCEnv.config** に移動し、**localSPServerName** の値を完全なサーバー名に変更して、修正を保存します。
- SharePoint 2013 ファーム内に複数の Search Service アプリケーションが存在しており、かつインデックス コンポーネントが同一 SharePoint サーバー内に保管されていない場合、Search Service アプリケーション バックアップの際にインデックス コンポーネントをバックアップすることはできません。

- 透過的データ暗号化 (TDE) が施されたバックアップ済みデータベースの [別の場所へリストア] を実行する際、事前にリストア元のマスターキーがリストア先で生成されていない場合、[別の場所へリストア] ジョブは失敗します。この回避策として、リストア先 SQL Server 上で以下のコマンドを使用し、リストア元と同じマスターキーを生成します。

```
"USE master;
```

```
GO
```

```
CREATE MASTER KEY ENCRYPTION BY PASSWORD = '<(お使いのパスワード)>
```

```
';
```

```
Go"
```

その後 [別の場所へリストア] ジョブを実行し、TDE 暗号化済みデータベースをリストアします。

バックアップ ジョブの実行前にエレメント `<ForceUseCache>false</ForceUseCache>` の値を **true** に変更すると、インデックスを正常に生成することができます。

最小単位バックアップ&リカバリー

- Office 365 の登録ユーザーによって開かれているかチェックアウトされているバージョンのファイルはバックアップすることができません (SharePoint 2010 で発生)。
- ドメイン マッピングを使用する際、ドメイン サフィックスが追加されている場合はドメイン マッピングが適用されません。例: ドメイン名.com (SharePoint 2013 で発生)
- 権限の継承を解除したサブサイトがあるサイト コレクションをリストアする場合、リストア後のサブサイトは権限を継承し、バックアップ ジョブ前に作成したアクセス許可レベルはすべてサイト コレクションのアクセス許可レベルに含まれます (SharePoint 2013 で発生)。
- サイト コレクション管理者、サイト所有者、ファーム管理者などのグループのユーザー名は、対応するデータベースの指定のフィールドに保管されます。この指定のフィールドの長さは、1024 以上に設定することができません (SharePoint 2013 で発生)。

運用管理

コンテンツ マネージャー

- コンテンツ マネージャー ジョブを実行してオンプレミスの SharePoint サイト コレクションから SharePoint Online サイト コレクションへ移行する場合、アンケート リスト内の **完了** 列の値は移行元で **いいえ** に設定されていた場合でも移行先では **はい** に変更されます。(SharePoint 2010 で発生)
- SharePoint オンプレミス ファーム内のドキュメント ライブラリから SharePoint Online サイト内の手動で作成したライブラリに SharePoint オブジェクトをコピーするコンテンツ マネージャー ジョブを実行すると、列マッピング内で構成した **管理されたメタデータに変更する** 設定 (複数の用語の値を使用可能) が正常に動作しません。このため、移行元の列の値は移行先で失われます。(SharePoint 2013 で発生)
- コンテンツ マネージャー ジョブを実行して SharePoint オブジェクトを (ディスカッション リストを含めた) コミュニティ サイトから (ディスカッション リストを含めた) チーム サイトへコピーすると、コピー元のディスカッションはコピー先で使用できなくなります。また、リスト設定内の **削除** アクションがコピー先で非表示となり、サイト コミュニティ 機能もコピー先で使用不可となります。(SharePoint 2013 で発生)
- エクスペリエンス バージョンが 2010 かつドキュメント セット機能を有効化しているサイト コレクション からエクスペリエンス バージョンが 2013 であるサイト コレクションに SharePoint オブジェクトをコピーすると、コピー元のドキュメント セットはコピー先サイト コレクションへコピーされません。(SharePoint Online 2013 ファームで発生)

展開マネージャー

- API 制限のため、未発行の Nintex ワークフローは展開先環境へ展開することができません。
- 2010 エクスペリエンス バージョンを選択して、ドキュメント センター テンプレート サイト コレクションを展開元として指定し、展開先のサイト コレクションを手動で入力して展開マネージャー ジョブを実行すると、[最高評価のドキュメント Web パーツ] に表示されているドキュメントは展開先へ正常に展開されません。
- DocAve SP1 と SP3 CU3 ではデータ構造が変わるため、SP1 から SP3 CU3 へのアップグレード実行後に SP1 の展開ジョブから開始したロールバック ジョブは失敗します。
- 展開元および展開先両方のコンテンツ タイプで名前が一致しているがタイプが一致しない場合、コンテンツ タイプは展開先で上書きされません。この場合、元の名前の末尾に数字を追加して新しくコンテンツ名が作成されます。(SharePoint 2010 で発生)

レプリケーター

- SharePoint では、レプリケート先となるサイト コレクションに新しいグループを追加するとリアルタイムレプリケート ジョブを開始するイベントが発生し、データのレプリケート先にグループをレプリケートします。SharePoint はグループ所有者をグループ ユーザーに自動的に追加します。この場合はイベントは発生せず、リアルタイムレプリケーション ジョブは開始されません。また、グループの所有者はレプリケート先のグループ ユーザーにはレプリケートされません。グループの所有者は、次回以降のレプリケート処理が開始された際に正常にレプリケートします。
- レプリケート元およびレプリケート先でコンテンツ クエリ Web パーツを使用する場合、クエリされたリストもレプリケートする必要があります。この作業では Web パーツを含む SharePoint オブジェクトに加え、依存リストのレプリケートも必要となります。Web パーツが依存する関連リストはサイト内の複数個所に存在する場合があるため、レプリケーターではこれらのリストの自動レプリケートは実行しません。
- Managed Metadata 用語のレプリケーションは、レプリケート元とレプリケート先の両環境で Managed Metadata Service が Web アプリケーション レベルへ関連付けられ、かつ構成されている場合を除いて実行できません。
- プラン マネージャー インターフェイスでプラン ジョブをインポートする場合、ジョブの完了後もメモリーの空き容量が完全に解放されない可能性があります。これは ItemsControl という名前のコントロールに付随する Built-in エラー イベントがメモリーに残るためです。この問題を解決するには、まず DocAve からいったんログアウトし、ログインし直します。これによりステータスが使用中のメモリーも解放されます。
- Timeline 構成の更新分は増分レプリケーション ジョブに含まれません。増分レプリケーション ジョブは SharePoint イベント キャッシュ テーブルからレコードを特定することができますが、Timeline の更新分については SharePoint 内のイベント キャッシュ テーブルには記録されません。このため、Timeline 構成は増分レプリケーションジョブから除外されます。(SharePoint 2013 で発生)
- コンテンツ クエリ Web パーツ コンテンツは、レプリケート先で正しく表示されない場合があります。これはコンテンツ クエリ Web パーツの関連コンテンツがレプリケート先に存在せず、そのためレプリケート ジョブに含まれない場合があるためです。この問題の解決法として、コンテンツ クエリ Web パーツの関連コンテンツがレプリケート元の範囲に含まれているか、レプリケート先に存在しているかを確認する必要があります。(SharePoint 2010 で発生)
- SharePoint 2010 環境内で関連用語をアイテム レベルでレプリケートする際の問題を回避するため、Managed Metadata Service がレプリケート元・レプリケート先の両環境内の Web アプリケーションに関連付けられていることを確認する必要があります。

- SharePoint 2013 の保持および eDiscovery の機能を使用して新たに作成されたファイル バージョンは、リアルタイム レプリケーションによる複製の対象にはなりません。これは新規作成ファイルが過去のバージョンの更新日時を保持しているためです。この場合、ファイルはスケジュール レプリケート ジョブが実行されるタイミングでレプリケートされます。
- サイト コレクション管理者、サイト所有者、ファーム管理者などのグループのユーザー名は、1024 以上の長さには設定することはできません。(SharePoint 2013 で発生)

レポート ポイント

- ファーム レベルでのベスト プラクティス レポートには、評価の数は含まれません。(SharePoint 2013 で発生)
- DocAve のバージョンを SP3 CU2 にアップデートした後に SharePoint の Web パーツを再展開しない場合、ソーシャル データの収集と保存に問題が生じる場合があります。
- SharePoint 2013 ファーム内の SharePoint 2010 エクスペリエンス バージョンのサイト コレクションのトップ ディスカッションおよびトップ ブログの投稿 Web パーツでは、SharePoint 2010 ではいいね！ 機能が無いにもかかわらず、SharePoint 2013 エクスペリエンス バージョンのサイト コレクション内でディスカッション掲示板の いいね！ データや Web パーツが収集されます。結果として、いいね！ はディスカッションの数とブログ投稿のアクティビティ総数には含まれますが、レポートには含まれません。
- ソーシャル アクティビティ Web パーツを **サブサイトを含む現在のサイト** に設定し、その後新しいサブサイトを作成した場合、ソーシャル コレクターは新しく作成されたサブサイトを認識しません。回避策として、新しいサブサイトの作成後、Web パーツのソーシャル プロパティに移動し、**[選択の変更]** をクリックして **アイテム表示の構成** ウィンドウを開き、**[OK]** をクリックして構成を保存します。オブジェクト選択のアップデート後は、この Web パーツ のデータは正常に収集されるようになります。
- SharePoint 2013 環境では、評価データは各アイテムおよびドキュメントのプロパティとして、ソーシャル データベースではなく該当のコンテンツ データベース内に保存されますが、これによりファーム レベルでアイテムおよびファイルすべての評価データを取得できにくくなります。各コンテンツ データベース内に保存された評価データはソーシャル データベースに関連するものではなく、ソーシャル データベースの制限に含めるべきではないことに注意してください。
- DocAve では、発行側ファームの共有サービス データと使用側ファームの共有サービス データは識別されません。このため、両ファームのデータは一括で表示され、ファームごとに分けられることはありません。

ストレージ最適化

ストレージ マネージャー

- STSADM で "**backup**" コマンドを使用し、孤立したスタブを含む SharePoint 2010 サイト コレクションをバックアップすると STSADM コマンドがフリーズし、関連する SharePoint 2010 サイト コレクションのロック状態が [読み取り専用] (追加、更新、削除をブロックする状態) に変更されます。この問題は SharePoint の制限が原因で発生します (SharePoint 2013 では解消されています)。
- EBS を有効化した環境で **AgentToolSP2013MoveStub.exe** ファイルまたは **AgentToolSP2010MoveStub.exe** ファイルを実行してサイト コレクションを別のコンテンツ データベースに移動する場合、サイト コレクション内の元のスタブ (サイト コレクションの移動前に生成されたもの) と新たに生成されたスタブ (サイト コレクションの移動後にストレージ マネージャーのスケジュール ジョブで生成されたもの) へはアクセスすることができません。ただし、実コンテンツへの変換は正常に実行することが可能です。

コネクタ

- SharePoint の Explorer ビュー上で大量のコネクタ スタブ、または大量のコネクタ スタブを含んだフォルダーをリストから別のリストへと移動する場合、**[このアイテムは見つかりません]** というエラーが表示されることがありますが、フォルダーおよびコネクタ スタブは移行先へ正常に移動されます。この問題は SharePoint の制限により発生します。詳細な情報については、TechNet の記事 ([Issues Uploading Large Files to SharePoint](#)) をご参照ください (英語)。
- ネットシェア パスを使用し、バージョン管理が有効になっているコネクタ ライブラリについては、過去にメジャー バージョンを発行しており、かつ複数のマイナー バージョンを持つドキュメントの発行を解除する場合、.fsdl¥history フォルダー内のファイル データが失われる可能性があります。これは SharePoint の問題です。
- 接続先フォルダー内のファイル数が 5000 を超える場合、接続先フォルダーのサブフォルダー内のファイルは SharePoint コネクタ ライブラリに同期されません。この問題は SharePoint API の制限により発生します。Microsoft では、一つのリスト ビュー内で 5000 を超えるアイテムを一度に表示することを推奨していません。これは、SharePoint API でサブフォルダーの数を計算する際に問題が発生することが原因です。解決方法は以下の通りですが、これによりパフォーマンスの問題が発生する可能性があります。

SharePoint 全体管理を開き、**アプリケーション構成の管理 > Web アプリケーションの管理** へ移動します。お使いのリストをホストする Web アプリケーションを選択します (例: SharePoint - 80.4)。リボン上で **全般設定** を選択し、**リソースの調整** をクリックします。リストビューの閾値の上限が 5000 と表示されるので、値を編集します。**[OK]** をクリックして構成を保存します。

- サイト URL が長すぎる場合は、SharePoint 上で コネクタ設定 ページに移動することができません。これは SharePoint の制限が原因です。**コネクタ設定** ページに移動する際に URL が 260 文字を超過する場合、エラーが表示され、ページへ移動することができません。
- コネクタ設定で、**ファイル システムからメタデータの読み込み** フィールドの **ファイル システムからメタデータを読み込む** を選択します。パスが長すぎる (255 文字を超える) ファイルのメタデータは SharePoint へ同期されません。SharePoint API では、パスが 255 文字を超えるファイルのメタデータを取得することができません。
- SharePoint 2010 エクスペリエンス バージョンのテンプレートを使用して作成した SharePoint 2013 サイト コレクションでは、コネクタのライブラリを作成することはできません。
- エージェント サービスの中断中に SharePoint コネクタ ライブラリ内のファイルおよびフォルダーの名前が変更された場合、変更は構成パスの先には同期されません。
- SharePoint 2010 から SharePoint 2013 にアップグレードする際、コネクタ ライブラリに変換したメディア ライブラリは現状アップグレードすることができません。メディア ライブラリ内のデータは、アップグレード後は使用できなくなります。
- SharePoint の制限上の理由から、Information Rights Management は接続データのバージョン ファイルには対応していません。

通知

本書に含まれる内容は AvePoint Japan が所有かつ提供し、AvePoint Japan およびライセンス所有者に帰属します。本書の内容は著作権および商標登録およびその他所有に関わる法律によって保護されます。本書に掲載する通知および著作権の情報のいかなる削除ならびに変更も禁じます。

著作権

Copyright © 2014 AvePoint Japan K.K. All rights reserved. 本書の著作権は AvePoint Japan 株式会社に帰属します。本書に掲載されている情報はすべて日本および国際著作権法において保護されており、内容の無断複製、更新、転載を禁じます。本書のいかなる部分、いかなる書式および電子通信、機械的送信、複写、記録などのいかなる方法、あるいは AvePoint Japan 株式会社 (〒 108-0074 東京都港区高輪 4 丁目 10-18 京急第一ビル 11 階)、ならびに本書に掲載する情報がサードパーティに所有される場合サードパーティによる事前の文書による許諾なしに複製、保存、送信を禁じます。また上記の如何に関わらず、本発行物内の AvePoint 関連の情報 (派生物及び変化物を含む) の何人による複製及び転載も禁じます。また、如何なる複製物並びに転載物も自動的に AvePoint に属するものとし、該当者または継承者、担当者、相続者、恩恵者、実行者のいずれも該当複製物並びに転載物を直ちに AvePoint へ返却し、必要書類に署名することに同意するものとします。

登録商標

AvePoint[®]、DocAve[®]、AvePoint ロゴおよび AvePoint ピラミッド ロゴは AvePoint Japan 株式会社による日本特許庁登録済みの商標です。これらの登録商標および本書に使用されている他の商標はすべて AvePoint の専有プロパティであり、文書による許諾なしには使用できません。

Microsoft、MS-DOS、Internet Explorer、Microsoft Office SharePoint Servers 2007/2010/2013、SharePoint Portal Server 2003、Windows SharePoint Services、Windows SQL server、および Windows はマイクロソフト株式会社の商標または登録商標です。

Adobe Acrobat、および Acrobat Reader は Adobe Systems, Inc の商標です。

その他本書に掲載されている商標はすべて該当の所有者のプロパティであり、許諾なしに使用することを禁じます。

変更

本書の情報は情報提供のみを目的とし、通知なしに変更または更新される場合があります。当社では最新、そして正確な情報を提供するよう努力しておりますが、あらゆるコンテンツの誤りもしくは脱落に起因する間接的、派生的に生じた損害に対し、一切の責任を負わないものとします。当社は、ユーザーに対し予告、通知をすることなく AvePoint ソフトウェアのグラフィック ユーザー インターフェイスを変更する権利を所有しています。

〒 108-0074

東京都港区高輪 4 丁目 10-18

京急第一ビル 11 階